

剪定枝のリサイクル手法の比較

項目	ケースA	ケースE	ケースF
	焼却処理	小さな地域でのチップ化、堆肥化	大きな地域でのチップ化、堆肥化
先進事例	(現状)	国営昭和記念公園	町田市、鎌倉市
環境負荷(二酸化炭素排出量)	17,400(t-CO2/年)	17,400(t-CO2/年)	17,900(t-CO2/年)
経済性(コスト)	28.3(億円/年)	28.5(億円/年)	29.5(億円/年)
リサイクル量	0(t/年)	200(t/年)	6,900(t/年)
リサイクル原料の確保		容易	多少困難
求められる分別精度	分別の必要性なし	高い精度が必要	高い精度が必要
処理エリア	広い	狭い (排出者、利用者が特定)	広い (排出者、利用者が不特定)
排出者の負担	現状	現状 (一部非常に高い)	高い
分別区分	無	無 (一部有)	有
リサイクル製品の利用先の確保	確保は容易	ケースFよりは容易	すべての堆肥の利用先を確保できない可能性がある
リサイクル製品(利用方法)	熱 (発電、温水利用など)	チップ、堆肥	チップ、堆肥
利用先	施設内	家庭、公園、農家等	家庭、公園、農家等
処理施設の規模	熱回収施設：320(t/日)	熱回収施設：320(t/日) (主要な公園7箇所に堆肥場を設置)	堆肥化施設：30(t/日) 熱回収施設：300(t/日)
アンケート調査結果 (効果的と思う取り組みは?)	17.6%	家庭単位でのリサイクル 13.6% 公園や街路樹の剪定枝 36.5%	19.4%